

ロボテック戦略月次レター（2021年6月の振り返り）

米ヘルスケア銘柄が堅調

ワクチン接種の更なる拡大で、手術支援ロボット市場は年後半にも正常時の水準に回復へ

6月の世界株式市場（MSCI ACWI、米ドルベース）は上昇しました。過去数カ月にわたってバリュー株が市場全体をアウトパフォームしていましたが、当月は一転してグロース株がアウトパフォームしました。この背景には、米連邦準備制度理事会（FRB）が、足元の物価上昇傾向にもかかわらず金融緩和策の長期的な維持を明確にしたことがあります。長期成長テーマにフォーカスしているロボテック戦略にとって、好ましい投資環境となりました。



米国では新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでおり、経済の各方面で正常化が進展しています。

米国や欧州で新型コロナウイルスのワクチン接種が更に進み、経済の正常化への期待が高まっています。変異型の新型コロナ感染拡大の懸念はあるものの、2021年のグローバル経済の見通しは明るさを増しており、多くの主要国で成長見通しが上方修正されました。

糖尿病患者向け機器も好調

当月のロボテック戦略では、米国銘柄が全般的にプラス寄与となりました。中でもヘルスケア関連銘柄が堅調でした。糖尿病患者向け持続血糖値測定器の主要メーカーであるデクスコムは、同社の機器の使

用対象が2型糖尿病（遺伝と生活習慣から発病する糖尿病で、糖尿病患者の大半は2型）に拡大されたことが好感され、プラス寄与となりました。全米でヘルスケア製品および医療保険サービスを展開しているユナイテッド・ヘルスが、デクスコムの測定器を試験導入しました。米国では糖尿病患者が急増しており、糖尿病の悪化に伴う医療コスト増を抑えるために、デクスコムの機器が活用されています。また、生活水準の向上とともに世界中で糖尿病患者が増加しており、デクスコムの機器の海外でのニーズも大きいとみられます。

手術支援ロボット、先送りされてきた手術需要の回復の恩恵を享受

手術支援ロボット最大手のインテュイティブサージカルも堅調でした。コロナ禍で緊急性の低い外科手術が延期された影響を受けていましたが、



ワクチン接種が進んでいることから今年後半には施術件数が正常時の水準に回復すると見込まれています。病院側としても、スケジュールが立てやすく効率的なロボット外科手術を積極的に増やそうとしています。

米国では、先送りされてきた手術支援ロボットを使った選択的外科手術の施術件数が増加しています。

また、再びグロース株が脚光を浴びる中、半導体セクターでも、アドバンスト・マイクロ・デバイセス（AMD）やエヌビディアなど、ハイパフォーマンスコンピューティング向け半導体や人工知能（AI）

向け半導体などでリードする銘柄が特に堅調でした。

日本の自動化関連企業の見通し明るく

世界のロボット産業の先行指標として当戦略が着目している日本の産業用ロボットの受注額は力強い回復を続けており、幅広い自動化機器を提供する企業の需要を支えると見られます。日本市場は、足元ではワクチン接種の遅れでグローバル株式市場の中では冴えないパフォーマンスとなっていますが、自動化関連ビジネスの需要が上向いており、企業も海外市場に注力していることから見通しは明るいと考えています。実際、5月の工作機械受注額の海外分は前年同月比で2.7倍と大きく伸びています。

具体的には、モーション・コントロールの大手サプライヤーSMC、産業用ロボット大手のファナック、センサー／ビジョンシステム製造を手掛けるキーエンス、ロボット用精密減速機メーカーのナブテスコなどに注目しています。

なお、6月下旬には、バイデン米大統領と超党派の上院議員グループが1.2兆ドル（約132兆円）規模のインフラ投資計画について合意に至りました。同計画には電気自動車（EV）の充電設備の全米への拡充が含まれており、米国でのEV普及の加速が予想されることから、当戦略で注目しているEV製造関連設備投資が前倒しで進む可能性があります。

足元で経済再開が進むにつれ、市場では物価動向に関心が集まっていますが、FRBは物価の上昇は一過性のものであることを繰り返し強調し、量的緩和政策を維持する姿勢を示しています。一方で、運用チームは向こう数年に大幅な賃金上昇が起こるとは予想していませんが、労働力不足や賃金上昇によって企業はより一層の自動化を迫られ、自動化機器の需要を押し上げるものと思われ、今後その推移を見守っていきます。

関連リンク

[日本の自動化銘柄が好調: ロボット受注など日本の産業活動の先行指標、世界経済回復の恩恵を受けて堅調に推移](#)

[ヘルスケアセクターが堅調: 新型コロナワクチン普及による経済再開に伴い、手術支援ロボットの需要拡大へ](#)

[半導体不足の影響は?: 影響は一時的、半導体企業やロボット関連業界には中期的に恩恵に](#)

[アクサIMのロボテック戦略について](#)

[フラムリントン株式: 注目のテーマ株式](#)

[ポートフォリオ・マネージャーが語るロボテック戦略への新型コロナウイルスの影響](#)

ディスクレーマー

アクサIMについて

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサIM）は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスおよび伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と考えられるものを追求しています。2021年3月末時点で約8,690億ユーロの運用資産残高を有しています。

アクサIMは、グリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、2021年3月時点で5,740億ユーロにおよぶESG（環境、社会、ガバナンス）統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年までに、全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業にESG原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらしつつ、お客様に真に価値のある責任投資ソリューションをご提供することです。

アクサIMは20カ国27拠点において2,440名余の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサIMは、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

投資リスク及び費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はお客様の負担となります。

【ご留意事項】

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようにお願いします。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第16号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会

Ref-21653